

名張市がめざす

コミュニティ・スクールを基盤とした

小中一貫教育



平成30年3月

名張市教育委員会

名張市がめざす コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育

はじめに

名張市は、四季の変化にとんだ豊かな自然と長年の歴史に彩られた伝統文化や産業を背景に、多くの市民が、住みよい、これからも住み続けたいと感じる「暮らしのまち」として発展を続けてきました。

市民一人ひとりが互いに個性を認め合い、支え合うことで、豊かな心と他に誇ることのできる地域コミュニティを育んできました。これからもこのまちを愛し、ずっと住み続けたいと言える市民、そして、人と人、地域と地域のつながりそのものが、他に誇れる本市の何よりの財産であるとともに、これからのまちづくりの大きな基盤です。

一方、社会はグローバル化、情報化が一層進展し、予想をはるかに超えるスピードで多様化が進み、これまで以上に変化の激しい時代が訪れることが予想されています。加えて、本市の人口は平成12年にピークを迎えましたが、それ以降は減少傾向をたどっており、今後は超少子・高齢化がさらに進むことが見込まれています。

これらの背景から子どもを取り巻く環境も大きく変化していくものと考えられ、これからの時代を生きる子どもは、一人ひとりが多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的にたくましく切り拓いていく力や人とつながり、共に学び合い、支え合って豊かな未来の社会を築いていく力が求められます。

このような状況から、子どもの育ちや学びに合った系統性・連続性のある新たな教育や一人ひとりの子どもに教職員が向き合うための「教育環境の整備」と「教育内容の充実」を着実に推進していくことが不可欠であります。また、これからは、学校が地域コミュニティの絆づくり、生きがいづくりの拠点としての役割を求められることを想定し、学校が地域コミュニティの中核となって、地域の皆さんと協働していくとともに、様々な知恵・資源を学校に取り入れることができる新たな仕組みを構築する必要があります。そこで、名張市では、市内すべての小中学校においてコミュニティ・スクール及び小中一貫教育を導入し、「夢を実現する力」と「社会を拓く力」を備えた『夢をはぐくみ 心豊かで 元気な「ばりっ子」』の育成をめざして、市民みんなで名張の子どもたちを育てていきます。



小中一貫教育の目的

小中一貫教育は、小学校と中学校が共通しためざす学校像・子ども像を掲げ、小学校6年間、中学校3年間という括り(くく)を取り払い、義務教育9年間の一貫した系統性・連続性のある指導を行うものです。名張市では、これまでの小中連携から一步進んだ小中一貫教育を実施することにより、子どもに次のような力を育むことをめざします。2020年度本格実施を目途に、市内すべての中学校区でコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育をスタートすることをめざして準備を進めています。

「小中一貫教育」でどのような力を育てるの？

未来を担うための資質・能力を育成します

「夢を実現する力」「社会を拓く力」

生きて働く

「知識・技能」の習得

未知の状況にも対応できる

「思考力・判断力・表現力等」の育成

学びを人生や社会に生かそうとする

「学びに向かう力・人間性等」の^{かんよう}涵養

よこのつながり(学校と家庭・地域)

たてのつながり(小学校と中学校)

※小中一貫教育とは

小中連携教育のうち、小・中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす教育。

※小中連携教育とは

小・中学校が、互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育。

小中一貫教育の推進のために

「小中一貫教育」の推進のためには、小学校と中学校の円滑な接続を図るだけでなく、小学校教職員と中学校教職員が義務教育9年間の「学び」と「育ち」に係わる当事者として、校種を越えて主体的に協働していくことが大切です。

そのためには、

1. 小中学校の教職員が「子どもの実態」を共有する。
2. 中学校区の「めざす子ども像」及び「教育目標」を掲げる。
3. 小中学校が一体となる「グランドデザイン（構想図、戦略マップ等）」を作成する。

子どもの“よいところ”を伸ばし、一人ひとりの子どもたちの「学び」と「育ち」をより豊かなものにすることをめざして作成します。

めざす子ども像の実現に向けた「つきたい力」や「軸となる取組・活動」等を明らかにするとともに、グランドデザイン（構想図、戦略マップ等）に基づいた具体的実践に取り組みます。

※小中一貫教育を構想する上で最も留意することは、小中一貫教育は子どもたちにとってよりよい教育を実現するための「手段」であって、それ自体が「目的」ではないということです。

名張市における小中一貫教育のねらい

<p>確かな学力の向上 体力の向上</p>	<p>子どもの発達に応じた、9年間の一貫した系統性・連続性のある指導を行うことによって、きめ細やかな学習指導を実現します。小学校における段階的な教科担任制の実施や小・中学校教職員の乗り入れ授業等を行い、子ども一人ひとりの確かな学力・体力を向上させます。</p>
<p>人間関係力の向上</p>	<p>幅広い年齢の子ども、保護者、地域住民等との交流や学習、企業、高校・高専等における体験活動等を通して子どもの多様性を尊重する態度や人と関わろうとする意欲・関わる態度を育みます。</p>
<p>いじめの防止と 不登校問題の解消</p>	<p>小・中学校の教職員が早期から一人ひとりの子どもの現状を把握・共有し、9年間の一貫した指導を行うことにより、未然防止、早期発見、早期対応し、いじめの防止や不登校問題を解消します。</p>
<p>ふるさとを愛する 心の醸成</p>	<p>名張の人、自然、歴史・文化等の良さを知り、誇りや愛着をもち、ふるさとを語ることができる子どもの育成をめざしたふるさと学習「なばり学」の実施により、ふるさとを愛する心を醸成し、地域の課題解決に主体的に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献する人材(グローバル人材)を育成します。</p>
<p>英語力の向上</p>	<p>小学校1年生から中学校3年生までの一貫した英語教育を実施することにより、英語を学ぶ意欲を高め、聞く・読む・話す・書く技能の確かな習得をめざします。グローバル社会の到来を見据え、自国の文化への理解を深めるとともに、異なる文化をもつ人々と共に生きようとする心を育みます。</p>

夢をはぐくみ 心豊かで 元気な「ばりっ子」

推進のための3つのポイント

①「お互いを知る」

小学校と中学校という枠組みを越えてお互いの取組や実情を交流し、小中学校の教職員や児童生徒が知り合いになることから始まります。

教職員や児童生徒の交流を促進することで、教職員や児童生徒の意識が変わり、そのことが、中学校生活への不安感の減少や学習意欲の向上、ひいては中1ギャップの解消につながります。

②「お互いに育む」

「お互いを知る」ことで教職員の意識変化や子どもの意欲が向上したことを受けて、小学校と中学校が系統性・連続性のある指導を行うことにより、日々の授業や生徒指導の充実を図ります。

一人ひとりの子どもを主体として考えると、学習指導や生徒指導が、学年や校種の違いで大きく変化することは、決してプラスにはなりません。すべての学年で全く同じ指導をするということではなく、子どもの発達段階や実態に応じて、系統性・連続性のある指導を行うということです。

③「お互いに確認し合う」

校内の取組や実践を小中一貫の観点や視点から見直し、一人ひとりの「学び」と「育ち」を学年間、校種間で確実に引き継ぎます。そのことが、9年間を見通した小中一貫教育の充実につながります。

各学年や各校種で単発的な取組を行い、自己完結してしまうのではなく、一人ひとりの子どもを主体として、子どもの姿を前面に出して、子どもたちが身につけた力やこれからつけさせたい力等を義務教育に関わるすべての教職員で、お互いに確認し合い、同じ観点や視点で取り組みます。

推進のための特色あるカリキュラム

①ふるさと学習「なばり学」

名張の自然や歴史、伝統・文化、人、産業・観光等について9年間を通して学びます。体験活動を取り入れながら、「名張の良さを知り、自然を守り、伝統や文化を引き継いでいく一人である」という意識と実践力を育てます。



②英語教育

小学校1年生から中学校3年生までの一貫した英語教育を実施することにより、英語を学ぶ意欲を高め、話し手や書き手の意図を理解し（聞く・読む）、自分の考えなどを英語で発信する（話す・書く）技能を習得します。自国の文化への理解を深め、異なる文化をもつ人々と共に生きようとする心を育みます。



③キャリア教育

地域学習や職場体験学習等を通じて自分の思いや自分を取り巻く人たちの願い、環境、自らの生き方について考える経験を積み重ねていきます。地域の特色を生かした9年間のキャリア教育によって、夢の実現に向けて、学ぶ意欲や主体的に進路を決定する力を育みます。



小中一貫教育の取組

できた！を
ふやそう

地域とともにある学校

地域の
教育力

家庭の
教育力

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育

コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を置く学校のことです。未来を担う子どもたちの豊かな成長のために学校・地域・保護者が連携・協働し、それぞれが、自分たちに何ができるか当事者意識をもって子どもたちの成長を支えていく仕組みです。

名張版コミュニティ・スクールでは、学校・地域・保護者がめざす子ども像を共有するとともに、その実現のために「学校運営」「学校支援」「地域貢献」を柱に、地域の子どもの「学び」と「育ち」に係わる当事者として、連携・協働し取組を実施していきます。

学校・地域・保護者が連携・協働したコミュニティ・スクールを基盤に小中一貫教育の取組を行うことで、地域とともにある学校として、めざす子ども像実現に向けた実のある取組が実現します。

名張版コミュニティ・スクール 3つの柱

①学校運営への参画	②学校支援の充実	③地域貢献の場づくり
めざす子ども像を共有し、教育課程・授業改善・学校評価等の学校運営に参画します。	めざす子ども像の実現のため、学習支援・部活動支援・環境美化・安全確保支援等の学校支援に取り組みます。	「地域ビジョン」を共有し、地域を愛し地域を担う人づくり、地域の絆づくりのため、地域貢献の場をつくります。

●取り組み例●

①学校運営への参画	②学校支援の充実	③地域貢献の場づくり
 <p>「育てたい子どもの姿」について熟議</p>	 <p>学習支援（昔遊び）</p>	 <p>将来のまちづくりについて語り合う</p>
 <p>学校運営協議会委員による授業参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートについて熟議 ・小中一貫教育の取組について報告 ・子どもの生活習慣について話し合う 	 <p>ボランティア充実のための募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動支援・読み聞かせ ・登下校の安全支援・環境整備 ・農業体験への支援 	 <p>地域の方とともにクリーン大作戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者との交流 ・行事に小中学生がボランティア参加 ・認知症サポーター養成講座

※熟議とは、課題について学習、熟慮し、課題解決に向けて、議論をすることです。